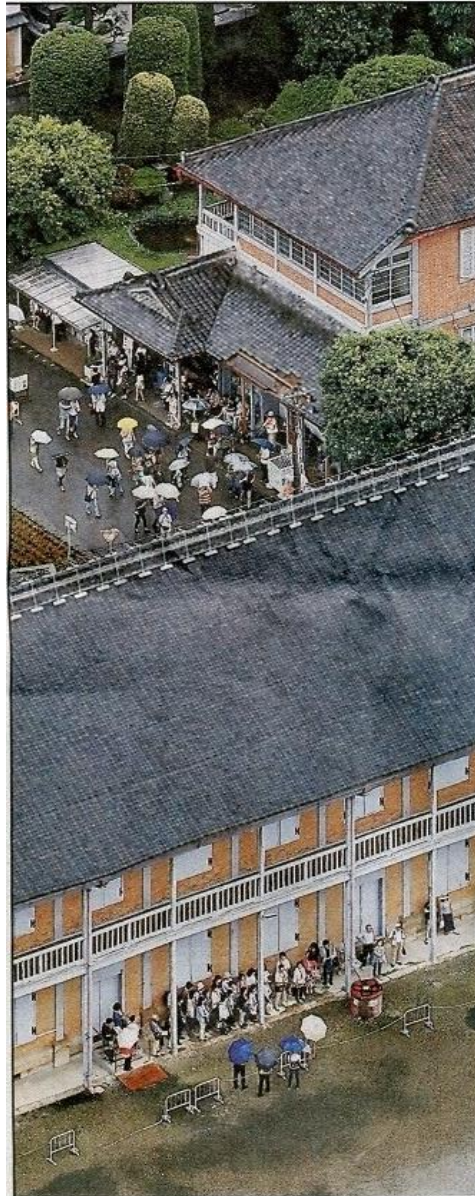


2014年6月21日 カタール・ドーハ
 Congratulation Japan



晴れて世界遺産 富岡製糸場

国内の世界遺産 文化＝文化遺産14件
 自然＝自然遺産4件

区分	登録年	名称	所在地
1 文化	1993	法隆寺地域の仏教建造物	奈良県
2 文化	93	姫路城	兵庫県
3 自然	93	屋久島	鹿児島県
4 自然	93	白神山地	青森県 秋田県
5 文化	94	古都京都の文化財	京都府 滋賀県
6 文化	95	白川郷・五箇山の合掌造り集落	岐阜県 富山県
7 文化	96	原爆ドーム	広島県
8 文化	96	厳島神社	広島県
9 文化	98	古都奈良の文化財	奈良県
10 文化	99	日光の社寺	栃木県
11 文化	2000	琉球王国のグスク及び関連遺産群	沖縄県
12 文化	04	紀伊山地の霊場と参詣(さんげい)道	三重県 奈良県 和歌山県
13 自然	05	知床	北海道
14 文化	07	石見銀山遺跡とその文化的景観	島根県
15 文化	11	平泉	岩手県
16 自然	11	小笠原諸島	東京都
17 文化	13	富士山－信仰の対象と芸術の源泉	山梨県 静岡県
18 文化	14	富岡製糸場と絹産業遺産群	群馬県

雨でも人垣 世界文化遺産への登録が決まった富岡製糸場。21日も観光客でにぎわった＝本社ヘリから、内田光撮影

カタールのドーハで開催中のユネスコ(国連教育科学文化機関)の世界遺産委員会は21日、「富岡製糸場と絹産業遺産群」(群馬県)の世界文化遺産登録を決めた。国内の文化遺産は昨年の「富士山」に続き14件目。自然遺産と合わせて世界遺産は18件となる。国内で近代以降につくられた産業施設の登録は初めて。▼39面製糸場守った信念を刷新し、世界的に共有される養蚕法を作り上げたほか、生糸の大量生産のための一貫した集合体として優れていると評価された。(長屋護)ドーハ、藤井裕介

デジタル版に動画

製糸場守った信念

停止後も18年管理 片倉工業

「売さばい、貸さばい、壊さばい」。
21日、世界遺産への登録が決まった
富岡製糸場（群馬県富岡市）。この
3原則を掲げ、操業停止後も日本の
産業近代化を象徴する建物を守った
私企業がある。「やっつと安住の地が
できる」。関係者は静かに喜びをか
みしめた。
▼1面参照



世界文化遺産への登録が決まり、喜ぶ観光客ら。21日、福留南友撮影

売らぬ 貸さぬ 壊さぬ

「富岡製糸場と絹産業遺産群」世界遺産への歩み



錦絵 上州富岡製糸場 片倉工業提供 富岡製糸場の様子

1872年	10月	富岡製糸場が官営模範工場として操業を開始（明治5年）
84(17)		田島弥平が「養蚕新論」を著す
93(26)	10	養蚕教育機関「高山社」設立
1902(35)	9	富岡製糸場、三井家に払い下げ
05(38)	9	荒船風穴1号風穴の起工
39		富岡製糸場、片倉製糸紡績会社（今の片倉工業）と合併
87(62)	3	片倉工業が富岡工場（富岡製糸場）の操業を停止
2003	8	群馬県の小寺弘之知事（当時）が世界遺産登録の研究開始発表
05	9	片倉工業が富岡市に富岡製糸場の建物を無償譲渡
06	11	県が「富岡製糸場と絹産業遺産群」（構成資産10カ所）を文化庁に提案
07	1	文化庁が国内暫定リストに「富岡製糸場」などを追加
11	10	構成資産を4カ所に絞り込み
13	9	国がユネスコ世界遺産センターに推薦書を提出
14	1	イコモス調査員による現地調査
	4	イコモスが「登録が適当」と勧告
	6	世界文化遺産に登録決定



製糸場を最後に経営した片倉工業（東京都中央区、竹内彰雄社長65）は「2番手」で、最高の形になった」と喜ぶ。142年前に操業を始めた富岡製糸場を、03年9月に引き継ぎ、50年近くを生産を続けた。工場を閉じた後も、日本の産業近代化の歴史を伝える遺物として建物を守り抜くことが社長の責任であり、「十字染だ」という。87年3月5日の閉所式では、当時の柳沢晴夫社長（故人）がこう語った。「単なる遺物とか見せ物としておもしろいのはごまかせない。歴史的、文化的価値が高貴な建物や確実な守られ、創業以来の工場関係者の思いが受け継がれていく形が固まるまで、自社で徹底した維持管理を続ける決意の表明だった。88年、文化財に」と打診した広木康二・元富岡市

昔の職場が世界遺産「誇り」

「登録すべきだ」という働き口を完全に支持し、ユネスコ世界遺産委員会での約25分間の書簡は、大半が委員国の賛成

「登録すべきだ」という働き口を完全に支持し、ユネスコ世界遺産委員会での約25分間の書簡は、大半が委員国の賛成

訪者を怒鳴り飛ばした。05年9月30日の勤務の最終日。正門や東門倉庫などの鍵を箱に戻し、「一覽表を市の担当者へ渡す。ああ終わった。何もなくて本当に良かった。あのときは一抹の寂しさがあったが、21日夕、地元テレビの中継で世界遺産に決まった瞬間を見届けると、別の思いで胸がいっぱいになった。世界からは認められた。これから守られていく」（馬場由美子、上田雅彦）

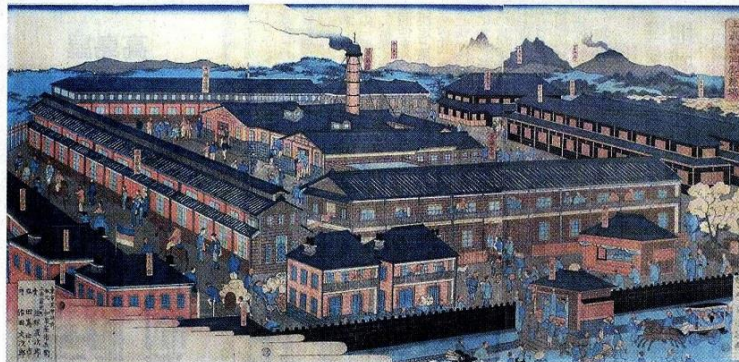
電話も受けた。片倉工業元社員（の会の役員も務める。馬場がたつた製糸場が世界に認められ、誇りです。群馬県甘楽町の元従業員、高橋文江さん（82）も「自分の職場が世界遺産になった。誇れるかな。15歳で片倉工業に入社し、繭から糸を取る「操糸」を担当した。夏にはつらな孫の姫木さん（9）と製糸場を訪れた。」「あちゃん、ここで働いていたんだって自慢しちゃった」

「4資産で物語が描けた結果」

フランスから産業革命の成果である機械製糸を導入し、発展させて世界に戻した。ユネスコはただでは世界遺産には認められなかった。

鈴木孝・東大教授（日本近代史は絹産業の自動化は日本が担った。115年間同じ工場の中で技術革新が行われ、中国やフランスで生かされている。ユネスコ事務局長の松浦晃一郎さんは富岡だけでなく、大監督教授（日本蚕糸史）は、高品質な生糸の量産化を果した結果、輸出先の米国で絹のストッキングが普及した点を指摘する。こうした世界的な絹の大衆化への貢献も日本政府はアピールした。（トハル山腰）

大監督教授（日本蚕糸史）は、高品質な生糸の量産化を果した結果、輸出先の米国で絹のストッキングが普及した点を指摘する。こうした世界的な絹の大衆化への貢献も日本政府はアピールした。（トハル山腰）



明治5年、富岡製糸場が創業した当時の錦絵。中学校の教科書などでお馴染みだ



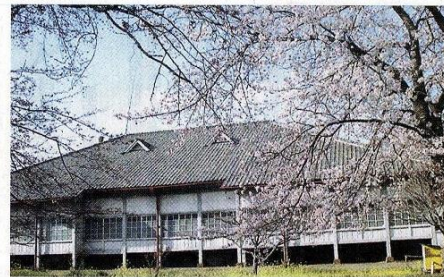
工場の正面にある東側倉庫は長さ104.4m、幅12m、高さ14m。木骨レンガ造りで、切妻造り2階建ての棧瓦葺。中庭に通じるレンガ積みアーチには「明治5年」と刻印されている。反対側には平面形、構造とも東棟と同じの西棟がある



倉庫とともに、明治5年の建物がそのまま残る操業場。木骨レンガ造り平屋建てで、切妻造り棧瓦葺。創業時は、フランス製の300人操りの操糸器械を備えていた。現在、初期の器械は岡谷系博物館に1台が保管されている



敷地内にある、製糸場を指揮したブリュナが明治8年まで住んでいた家。床面積は約1000平方m。



「殖産興業」のローマンのもと、日本の近代化の礎となった富岡製糸場（群馬県富岡市）。日本の産業の歴史が刻み込まれたばかりでなく、建築的価値も高いことから、施設を保存・管理する富岡市などがユネスコ（国連教育文化機関）の「世界遺産」登録を申請しているが、今年2月には、富岡製糸場と、周辺の絹業遺産群が「世界遺産暫定リスト」に登録され、その機運は一段と高まっている。富岡製糸場の歴史は、現代を生きていく我々に大きな教訓と希望を与えてくれる。

世界遺産めざす富岡製糸場

殖産興業の拠点

富岡製糸場は明治元年（1872）、明治政府が日本の近代化のために最初に設置した官営の製糸場。明治政府は、あらゆる面で立ち遅れていた日本を外国と対等な場にするため、「殖産興業」を重点政策とし、その中でもまずは輸出総額の60%を占め、最大の輸出品目だった、絹の生産を振興しようとした。開国により、日本の生糸は、広く海外に知られ渡り、生糸需要も増え、農業者の収入も増えたが、同時に、不当な利益を得ようとして生糸・偽物を輸出する者も出てきた。当時、日本から蚕種（蚕の卵）の輸出も増加したが、これはフランスやイタリアなどヨーロッパの蚕種の輸入国々で蚕の病気が流行したため、蚕の生産が激減的な打撃を受けていたためである。明治政府は、粗製濫造の状況を改善し、欧米諸国の需要に応えるため、①洋式の機械製糸を専門とする指導者は外国人とする②工女を全国から募集し、技術を習得させて帰国後は機械製糸の指導者とする——などの方針を定め、富岡製糸場を立ち上げた。

伊藤博文と、生糸が農家で養蚕で育ったが、浜沢新一が、横浜にいたフランス人貿易商に相談し、

「世界遺産」へのプロセス

富岡製糸場は、05年7月に国指定史跡となり、文化庁では文化遺産的保護の観点から、歴史的価値の観点から富岡製糸場絹産業遺産群が「世界遺産暫定リスト」に登録された。実際に登録されるためには今後、「世界遺産登録推薦書」を作成し、ユネスコ世界遺産委員会に提出し、それに伴って現地調査が行われ、ヒューロウが、

た結果、生糸輸入リユネを結ぶられ、たぢり版製約した、ブリュナの「見立書」に基づき、製糸場地選定にたつたが、富岡に決まったのは、蚕の養蚕の中心地で、優良な繭の供給が可能（飛騨にも高品質な生糸の産地、の製糸に必要な水の確保が可能（蒲川からの引水）③広い敷地が比較的容易に入ること、富岡に合った気候・風土が全体に協力できる——などが理由だった。

工場は、フランスの技術日本に合わせた法で建てられた。例えば、日本人の得意な木材を骨組みをつくり、その間にレンガを積み、和洋折衷

アクセスと見学方法

住所＝富岡市富岡1の1、電話＝0274・64・0005。東京から上越・長野新幹線で高崎駅下車。上信電鉄に乗り換え、35分で上州富岡駅に着く。製糸場は駅から徒歩10分。車では、群馬ICから藤岡JCTで上信越道に入り、富岡インターを降りて5分。見学は、今月から有料（大人500円）となったが、希望すれば解説員が同行し説明してくれる（1時間程度）。

長さ44mの操業場建設は明治4年（1871）から始まり、翌年7月に完成。10月4日に操業開始した。富岡製糸場には全国から多くの見学者が訪れ、模範工場として、機械製糸学んで帰った。また、工女たちが帰郷後、地方の工場で指導的役割を果たし、日本の産業の近代化と機械製糸の発展に大きく貢献した。

操業場は長さ441・8m、幅12・8m、高さ11・9mで、創業時は世界最大の工場。本格的な器械製糸は、全体で556の工女の手によって始まった。

富岡製糸場は、官営工場の松の下げにより、明治26年（1903）に三井物産に買収され、その後、明治31年（1908）には三井物産が、昭和14年（1939）には日本最大の製糸会社であった片製糸（現片製糸）に買収された。昭和17年（1942）に機械製糸を停止し、平成17年（2005）、富岡市が片製糸から建物等を譲り受け、世界遺産登録活動を開始したが、今からはガイド付きの一般公開も行っている。

一方、製糸場の女性には過酷な環境で働かされるというイメージがある。病気で工場を追い出される。郷へ向かう途中で息絶えた女性など、製糸場で働いた女性たちの姿をまとめた「あゝ野麦峠」（山本茂実、1968年刊）。79年には映画化もされた。古典的な「女工哀史」（細井和喜蔵、25年刊）や、「日本の下層社会」（横山源之助、1899年刊）にも、厳しい労働環境におかれた製糸場の女性たちが描かれている。

企画・制作 読売新聞社広告局 広告

祝世界文化遺産登録

近代日本の夜明け 富岡製糸場を知る

「富岡製糸場と絹産業遺産群」はこの6月に開催されたユネスコ世界遺産委員会で登録されました。国内の産業遺産としては島根県の石見銀山に続いて2例目。近代日本を象徴する建造物でもある「富岡製糸場」の魅力を解説する。

世界でも最大規模の製糸工場が誕生

培われた技術で高品質・大量生産を実現

明治政府が推し進めた。殖産興業の一環として設置された富岡製糸場。殖産興業とは、外国と対等に交渉できる国力を持つために、近代的産業を育て、富国強兵をはかること。

明治初頭、欧州ではカイコの病気が蔓延し、生糸は品不足になり、日本産の生糸への引き合いは大きくなっていた。海外から多くの資金を集める機会と考えた政府は、生糸の品質向上と増産を企図。器械製糸技術を全国に普及させるために、手本となる「模範器械製糸場」として富岡製糸場を計画した。

富岡製糸場では、フランスの技術に独自の改良を重ね、高品質の生糸の大量生産を実現。その結果、日本は20世紀初めには世界中に安価で良質な生糸を輸出、高級繊維の絹をより身近な存在に変えた。

当初は明治政府の官営工場だったが、その後三井家に払い下げられ民営化、さらに原合名会社に譲渡された。1939年に現在の片倉工業（本社、東京）に経営が引き継がれた。戦後も製糸工場として操業し続けてきたが、生糸価格の低迷などから87年にその長い歴史に終止符を打った。

大切に守られてきた明治の心

片倉工業の操業停止時の社長は、富岡製糸場に対して「売らない、貸さない、壊さない」の原則を掲げた。一般公開せず、2005年に富岡市に移管されるまでの間、修繕や管理を行い続けてきた。その地道な活動のおかげで、創業時の主要な建物が、ほぼそのまの形で残っている。

「富岡製糸場と絹産業遺産群」とは

「富岡製糸場」を中心に、瓦屋根に換気設備を付け、近代養蚕農家の原型とされる「田島弥平旧宅」、近代養蚕法の標準「清道舎」を開発し、養蚕教育を行った「高山社跡」、自然の冷気を利用した、日本最大規模の蚕種（蚕の卵）貯蔵施設「荒船風穴」の4施設で構成されている。



大切に守られてきた明治の心

【女工館】

明治6年建築。技術指導のために雇われたフランス人女性教師の宿舎。西洋様式のベランダ、格子状に組まれた天井など洋風建築の特徴が多い。



【西蔵倉庫】

明治5年建築。東蔵倉庫とはほぼ同じ仕様。当時の養蚕は年に1回だけの収穫だった。1年間産卵分の繭を貯えるために大きな倉庫を2棟建築した。



【繭糸場】

明治5年建築。柱がない洋式トラスト工法の建物。長さ約140.4メートル、幅12.3メートル、高さ12.1メートルで、創業当初、世界的にみて最大規模。



【検査人館】

明治6年建築。木骨レンガ造ベランダ付きの二階建て。フランス人男性技術者の住まいとして建築。二階の一部は貴賓室として使われていた。



【プリユナ館】

明治6年建築。木骨レンガ造平屋建て。フランス人指導者ポール・プリユナ一家が住んでいた。後に改築され、工女の夜学校や高等小学校舎として使用。



【東蔵倉庫】

明治5年建築。西洋のレンガ組みの技術と、日本の木材で骨組みを組み合わせた。1階は事務所などに、2階では繭を保管した。



画像提供 富岡市・富岡製糸場

錦絵「上州富岡製糸場」(明治5年)

工女たちの活躍



明治5年、政府は富岡製糸場で働く工女を募集した。しかし、「異人に生き血をしぼりとられる」といううわさが広まり、工女が集まらなかった。そこで、初代場長の尾高は娘の勇を入場させる。勇の決断で徐々に工女は増え、官営期だけで、出身地は32道府県にものぼった。工女は1日平均7時間45分働き、日曜は休み、夏期、冬期の休暇もあった。給料は練糸技術の等級により格付けされていた。最も技術力のある「一等工女」は、給与も服装も特別待遇。錦絵に描かれるほどの憧れの存在だった。その一等工女を描いた錦絵には、昭憲皇后が行啓の際に詠じた歌「いと車とくもめくりて大御代の富をたたくる道ひらけつ」の顔が描かれている。

富岡製糸場の歴史

- 明治3年(1870) 2月 明治政府において、「官営製糸場設立の議」を決する
- 6月 プリユナが「見込書」を提出し、政府と仮契約を結ぶ
- 明治4年(1871) 3月 富岡製糸場の建設に着手
- 明治5年(1872) 2月 「工女募集の議」を決する
- 7月 主要な建物が完成
- 工場長「尾高忠」の娘、「尾高勇」が工女第一号として入場
- 10月 富岡製糸場の操業を開始
- 明治6年(1873) 6月 明治天皇の皇后・皇太后が行啓される
- 明治26年(1893) 10月 三井家への払い下げ
- 明治35年(1902) 9月 原合名会社へ譲渡
- 昭和14年(1939) 4月 片倉製糸紡績株式会社と合併
- 昭和62年(1987) 3月 操業停止
- 平成17年(2005) 9月 片倉工業株より建造物一切を富岡市に寄贈
- 平成18年(2006) 7月 国指定重要文化財となる
- 平成19年(2007) 1月 「富岡製糸場と絹産業遺産群」世界遺産暫定リストに選定、受理される
- 平成25年(2013) 1月 世界遺産委員会へ推薦書を提出
- 平成26年(2014) 6月 世界文化遺産登録が実現

社説

世界に誇る近代日本の原点

日本の近代化の原点となった施設の価値が、世界的に認められたことを喜ぶたい。

群馬県の「富岡製糸場と絹産業遺産群」が、国連教育・科学・文化機関(ユネスコ)の世界文化遺産に登録されることになった。国内の世界文化遺産は、昨年登録された「富士山」に次いで14件目となる。

明治以降の産業の遺構が世界遺産になったのは、初めてである。日本の工業発展の歩みを伝える貴重な遺産として、大切に保存していくことが必要だ。

富岡製糸場は、1872年に官営模範工場として設立された。日本が独自に編み出した良質の生糸の生産技術と、フランスの機

械技術を結合させた世界最大規模の製糸工場だった。

後に民間に払い下げられたが、富岡の技術は、高品質な生糸の大量生産への道を開いた。1930年代、日本の生糸は世界市場の80%を占めるに至った。

世界の産業史や文明交流史の上でも、富岡製糸場が大きな役割を果たした点が、世界遺産に値すると評価されたのだろう。

明治初期の建物が、完璧に近い状態で保存されていることも、誇るべき特徴だ。女子工員たちが鮮やかな手さばきを見せた繰糸場や、温度に配慮しながら繭を保存した赤れんが倉庫が、先人たちの足跡を今日に伝えている。

1987年まで操業を続けた事業主が、工場閉鎖後も20年近く社

員を配置し、年間1億円をかけて維持管理を続けた功績が大きい。世界遺産登録の陰には、こうした献身的な努力があったことも、忘れてはならない。

富岡製糸場に加え、養蚕農家の田島弥平旧宅、蚕種を貯蔵した荒船風穴など、製糸場と密接な関係にあった三つの絹産業遺産も世界遺産となった。

当初は、碓氷峠鉄道施設など10件の資産の登録を目指す計画だったが、製糸場の技術革新に直接関わった資産だけに絞り込んだこと

が功を奏した。今後の世界遺産登録に向けた戦略を考える上でも参考となるだろう。

世界遺産登録により、政府や自治体は協力して維持管理していく義務を負うことになる。来場者が施設の素晴らしさを満喫できる受け入れ態勢の整備は必要だが、無秩序な観光開発は、世界遺産の価値を損ないかねない。

単なる行楽地として振興を図るのではなく、歴史の重みを多くの人に知ってもらうことに力を入れるべきだろう。

「養蚕を革新」各国が称賛

【ドーハ＝横野健】「おめでとー、日本」。カタールのマイヤー・サ・アル・サ

「二」議長が木づちをたたき、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界文化遺産の登録が決まった瞬間、群馬県の大沢正明知事と門司健次郎ユネスコ日本政府代表部大使、青柳正規文化庁長官は握手を交わし、喜びを

表が構成資産の紹介を始める。大沢知事は会場に日本府代表団は緊張した表情で聞き入った。

青柳長官が、富岡製糸場など遺産について説明した後、審議では、21の委員國中、18か国が発言。「製糸業を世界的に発展させ、養蚕を革新した技術交流のすばらしい実例」(インド)、



「フランスの技術を現地に適合させたもので、創造のための相互依存の尊さや世

界規模の相互理解に光を当てた」(フィリピン)など、すべてが登録を支持する発言だった。登録が決定すると、会場から祝福の拍手がわき起こった。

登録決定後の記者会見で、大沢知事は多くの人の長年の尽力のたまもの

だと謝意を表し、「世界遺産登録は新たなスタート。国や関係市町と連携し、保存管理に取り組み、世界の宝を将来に引き継いでいきたい」と決意を語った。

門司大使は「地元の伝統的な養蚕手法と西洋の技術を組み合わせた技術革新が、世界の絹産業の発展に大きな役割を果たしたことが高く評価された。政府として富岡の価値と魅力を世界に向けて発信したい」と意気込んだ。

2014年7月23日 安倍首相 富岡製糸場視察



首相動静 23日

【午前】9時9分、JR東京駅。20分、あさま511号で同駅発。10時9分、JR高崎駅着。51分、群馬県富岡市の富岡製糸場。青柳文化庁長官、大沢正明同県知事、岩井賢太郎同市長出迎え。繭倉庫で繰糸体験。寄宿舎などを視察。地域ボランティアと懇談。11時47分、同県甘楽町の有機農家をつくる「甘楽町有機農業研究会」の農園。茂原荘一同町長出迎え。収穫体験。トマトを試食。

【午後】0時8分、報道各社のインタビュ。52分、JR高崎駅。1時6分、あさま524号で同駅発。55分、JR東京駅着。2時13



群馬県観光情報誌

ググっとぐんま

夏号

2014.7~9

特集

祝

世界遺産登録

富岡製糸場と 絹産業遺産群



群馬県のマスコット
「ぐんまちゃん」

富岡製糸場

荒船風穴

高山社跡

田島弥平旧宅



世界遺産

「富岡製糸場と絹産業遺産群」

富岡製糸場を含む4つの構成資産は、高品質な生糸の大量生産を実現し、近代的な養蚕や製糸という絹産業のシステムを確立しました。良質で安定的な生糸生産（富岡製糸場）には、近代的な養蚕法（田島弥平旧宅、高山社跡）および養蚕多回数化のための蚕種の貯蔵（荒船風穴）が欠かせず、それらの要素は相互に

連携していました。また、この絹産業システムは、海外にも影響を与え、今も世界の絹産業を支えています。

近代的養蚕製糸技術を全国へ

全国から富岡製糸場に集まり、製糸技術を学んだ工女たちは故郷へ帰り、富岡製糸場をモデルとする製糸工場で指導者となりました。富岡製糸場を模範とする器械設備は、開業翌年の明治6年（1873）から明治12年（1879）の間に、全国26

の製糸工場に導入されたといわれます。また、田島弥平宅をモデルとする蚕室や田島弥平の清涼育、および高山社の清温育も全国に普及し、荒船風穴には貯蔵する蚕種が全国各地から寄せられました。

とみ おか せい し じょう
富岡製糸場（富岡市）

群馬県観光情報誌

ググっとぐんま 2014年 夏号 秋・冬号

JR 東日本